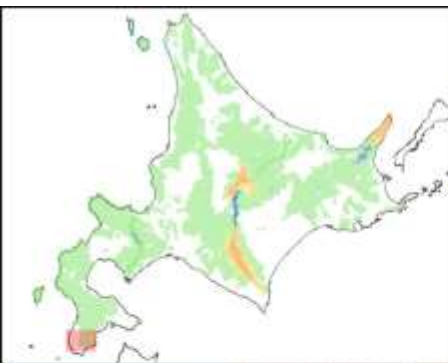


## 令和3年度 生物群集保護林の地帯区分の検討

- ・20016 千軒岳生物群集保護林
- ・20017 鶉川生物群集保護林
- ・20018 楸川生物群集保護林

# 20016 千軒岳生物群集保護林











千軒岳  
生物群集保護林

チリチリ川ブナ  
希少個体群保護林

暮盤坂サワグルミ遺伝資源  
希少個体群保護林

ムズルセ川トドマツ  
希少個体群保護林

凡例

-  調査対象保護林
-  行政区域
- 保護林区分
  -  森林生態系保護区域(保存地区)
  -  森林生態系保護区域(保全利用地区)
  -  生物群集保護林
  -  希少個体群保護林
  -  緑の回廊
  -  その他国有林

下図画像: 国土地理院の地理院タイル(淡色地図)を使用

# 20016 千軒岳生物群集保護林 (958.05ha)

## 保護林設定 目的と経緯

- ・北海道最南端の高山帯である千軒岳に見られる地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、自然環境の維持、野生生物・遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展等に資することを目的とする。
- ・昭和12(1937)3月31日に「千軒岳植物群落保護林」に設定された。
- ・平成30(2018)年4月1日の保護林再編において、「生物群集保護林」として設定された。

## 保護対象と 生息・生育 区域

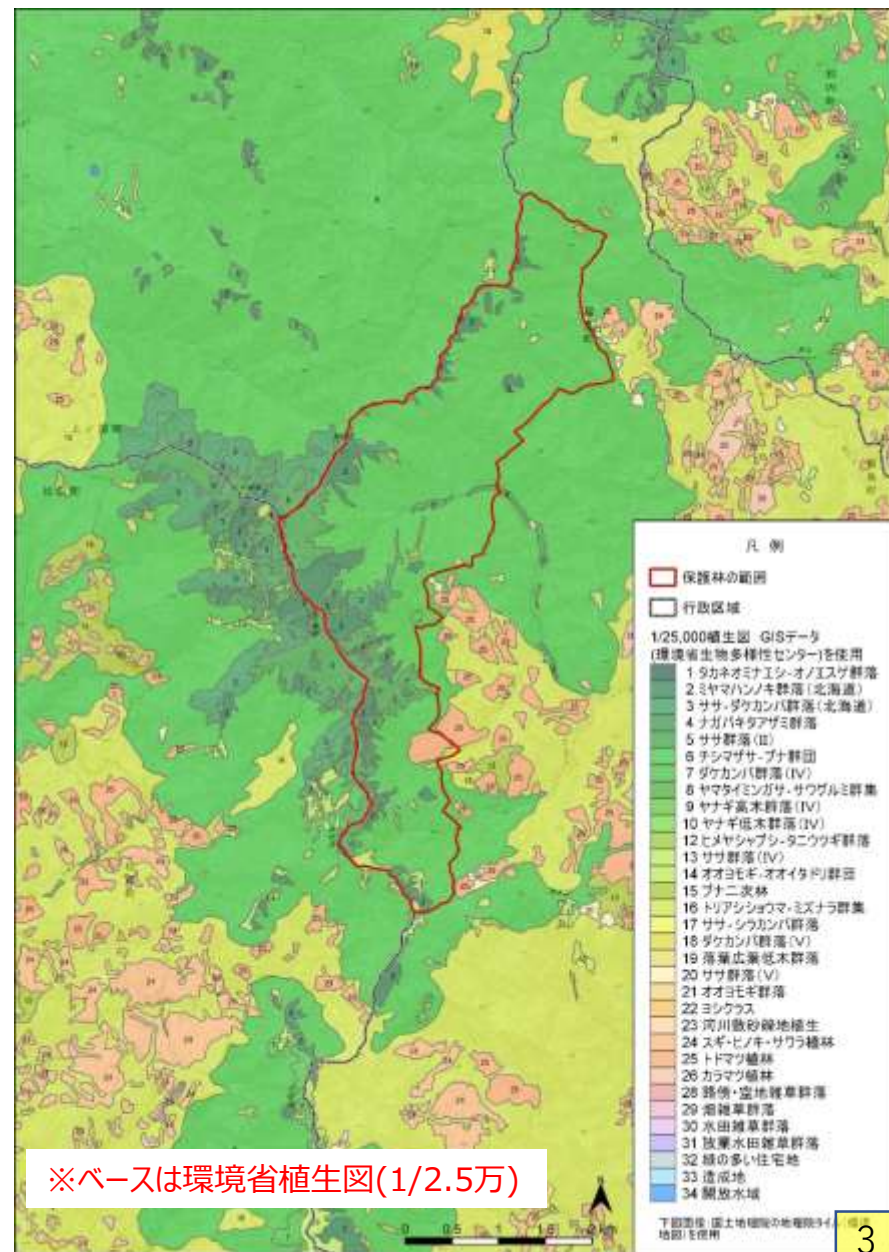
- ・千軒岳周辺地域の生物群集を有する森林。
- ・高山帯において、高山性植生と低山性植生が雪田に混生状態で見られる。

## 想定される 影響等

次ページ以降参照

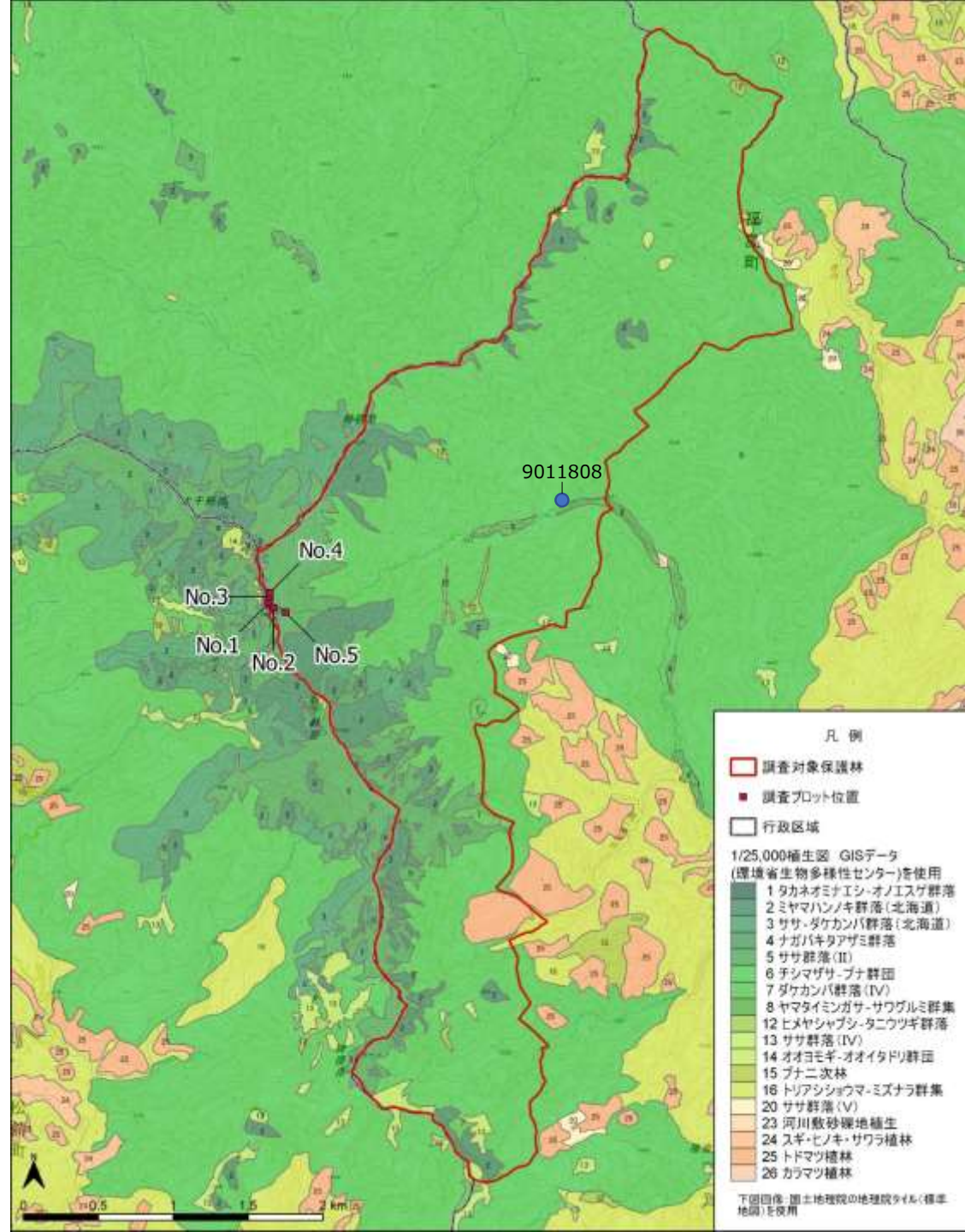
## 地帯区分 (案)

章の最後に提案





# 植生図 & 調査プロット位置図



※環境省植生図(1/2.5万)を基に作成





## 保護林内ブナ林の景観

2021年9月21日撮影 森林生態系多様性基礎調査において撮影  
格子点ID：9011808



## 林道 通行止め



Plot	調査地の状況																					
Plot1		<p>植生区分: 雪田草原            植生ランク: 植生自然度 10            地形: 尾根 (傾斜 15°)</p> <table border="1" data-bbox="1051 241 1624 602"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>生育種</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>タカネノガリヤス、トウゲブキ、シラネニンジン、ミヤマキンバイ、ゼンテイカ、モイワシヤジン etc</td> <td>0.1~0.5</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	層	生育種	高さ (m)	植被 (%)	高木	—	—	—	亜高	—	—	—	低木	—	—	—	草本	タカネノガリヤス、トウゲブキ、シラネニンジン、ミヤマキンバイ、ゼンテイカ、モイワシヤジン etc	0.1~0.5	100
層	生育種	高さ (m)	植被 (%)																			
高木	—	—	—																			
亜高	—	—	—																			
低木	—	—	—																			
草本	タカネノガリヤス、トウゲブキ、シラネニンジン、ミヤマキンバイ、ゼンテイカ、モイワシヤジン etc	0.1~0.5	100																			
Plot2		<p>植生区分: 雪田草原            植生ランク: 植生自然度 10            地形: 尾根 (傾斜 18°)</p> <table border="1" data-bbox="1051 861 1624 1250"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>生育種</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>ミヤマキンバイ、スゲ属の一種、ミヤマウシノケグサ、モイワシヤジン、シラネニンジン、ミヤマアズマギク etc.</td> <td>0.1~0.5</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	層	生育種	高さ (m)	植被 (%)	高木	—	—	—	亜高	—	—	—	低木	—	—	—	草本	ミヤマキンバイ、スゲ属の一種、ミヤマウシノケグサ、モイワシヤジン、シラネニンジン、ミヤマアズマギク etc.	0.1~0.5	100
層	生育種	高さ (m)	植被 (%)																			
高木	—	—	—																			
亜高	—	—	—																			
低木	—	—	—																			
草本	ミヤマキンバイ、スゲ属の一種、ミヤマウシノケグサ、モイワシヤジン、シラネニンジン、ミヤマアズマギク etc.	0.1~0.5	100																			

# 千軒岳生物群集保護林 調査プロットの概況2 (H25調査時)

Plot	調査地の状況																							
Plot3		植生区分: 雪田草原 植生ランク: 植生自然度 10 地形: 尾根 (傾斜 26° )	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>生育種</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>ミヤマヤナギ、スゲ属の一種、ミヤマキンバイ、ミヤマキヌタソウ、エゾノハクサンイチゲ etc.</td> <td>0.1~0.5</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	層	生育種	高さ (m)	植被 (%)	高木	—	—	—	亜高	—	—	—	低木	—	—	—	草本	ミヤマヤナギ、スゲ属の一種、ミヤマキンバイ、ミヤマキヌタソウ、エゾノハクサンイチゲ etc.	0.1~0.5	100	
層	生育種	高さ (m)	植被 (%)																					
高木	—	—	—																					
亜高	—	—	—																					
低木	—	—	—																					
草本	ミヤマヤナギ、スゲ属の一種、ミヤマキンバイ、ミヤマキヌタソウ、エゾノハクサンイチゲ etc.	0.1~0.5	100																					
Plot4		植生区分: 雪田草原 植生ランク: 植生自然度 10 地形: 尾根 (傾斜 14° )	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>生育種</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>コケモモ、ミヤマウシノケグサ、ミヤマキンバイ、エゾノヒモカズラ etc.</td> <td>0.1~0.5</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	層	生育種	高さ (m)	植被 (%)	高木	—	—	—	亜高	—	—	—	低木	—	—	—	草本	コケモモ、ミヤマウシノケグサ、ミヤマキンバイ、エゾノヒモカズラ etc.	0.1~0.5	100	
層	生育種	高さ (m)	植被 (%)																					
高木	—	—	—																					
亜高	—	—	—																					
低木	—	—	—																					
草本	コケモモ、ミヤマウシノケグサ、ミヤマキンバイ、エゾノヒモカズラ etc.	0.1~0.5	100																					
Plot5		植生区分: 雪田草原 植生ランク: 植生自然度 10 地形: 尾根 (傾斜 4° )	<table border="1"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>生育種</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>チシマザサ、ヒメゴヨウイチゴ、タカネノガリヤス</td> <td>0.1~1.0</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	層	生育種	高さ (m)	植被 (%)	高木	—	—	—	亜高	—	—	—	低木	—	—	—	草本	チシマザサ、ヒメゴヨウイチゴ、タカネノガリヤス	0.1~1.0	100	
層	生育種	高さ (m)	植被 (%)																					
高木	—	—	—																					
亜高	—	—	—																					
低木	—	—	—																					
草本	チシマザサ、ヒメゴヨウイチゴ、タカネノガリヤス	0.1~1.0	100																					



**保護林は千軒岳東側の山腹に広がる天然生  
林に設定されている。**

**なお、千軒岳の西側の道有林は、ほとんど天  
然林広葉樹林で、道自然環境保全地域に指  
定されている。**

このうち、西側尾根上の区域は特別地区又は  
野生動植物保護地区に区分されている。

※道自然環境保全地域

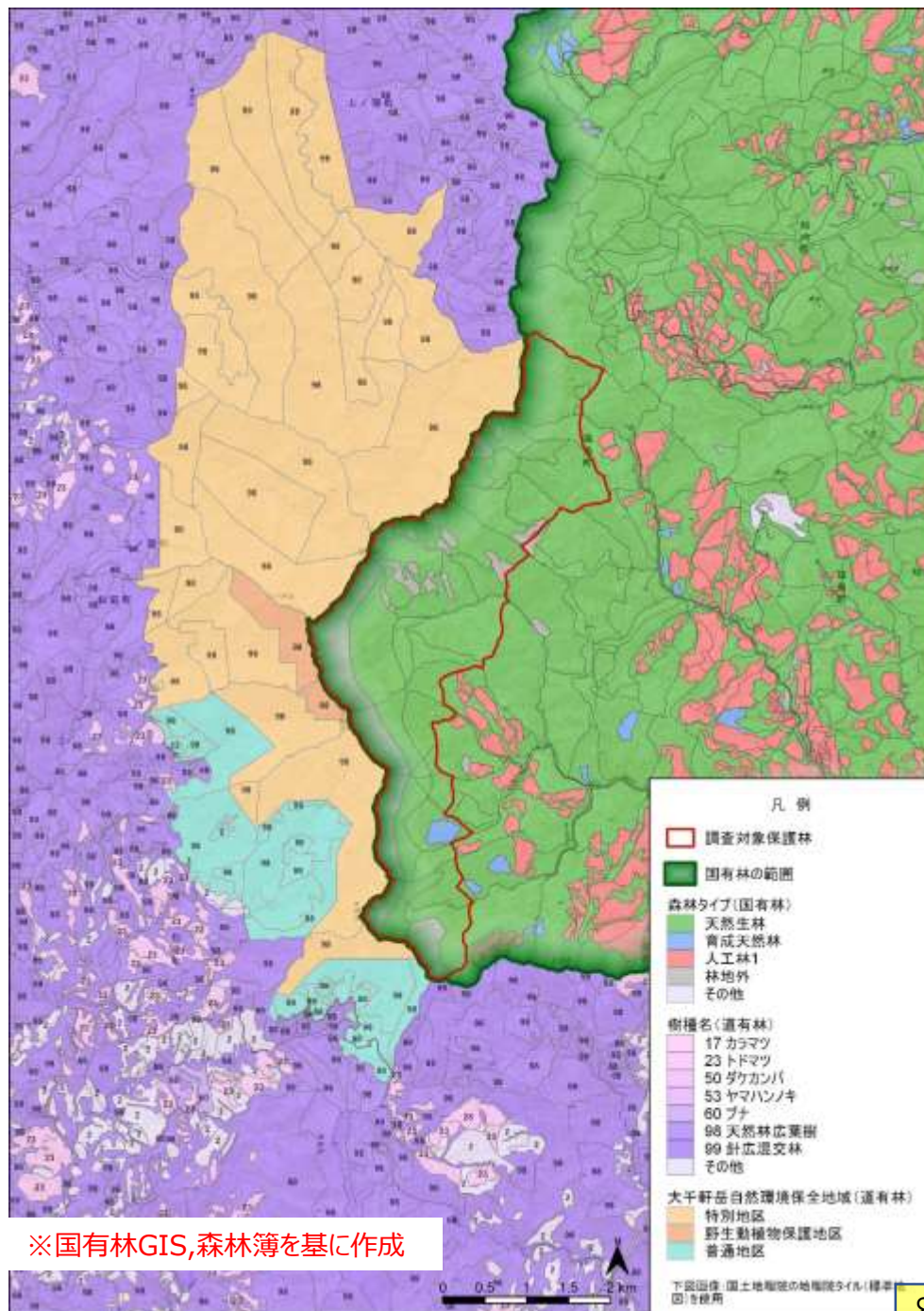
【特別地区】工作物の設置や土石の採取等に関して  
知事の許可が必要。

【野生動植物保護地区】特別地区のうち特定の野生  
動植物で稀有なもの、又は固有なものを  
保存するために必要な地区。

【普通地区】一定規模を超える場合は工作物の設置  
や土石の採取等に関して知事の許可が  
必要。

※参考URL

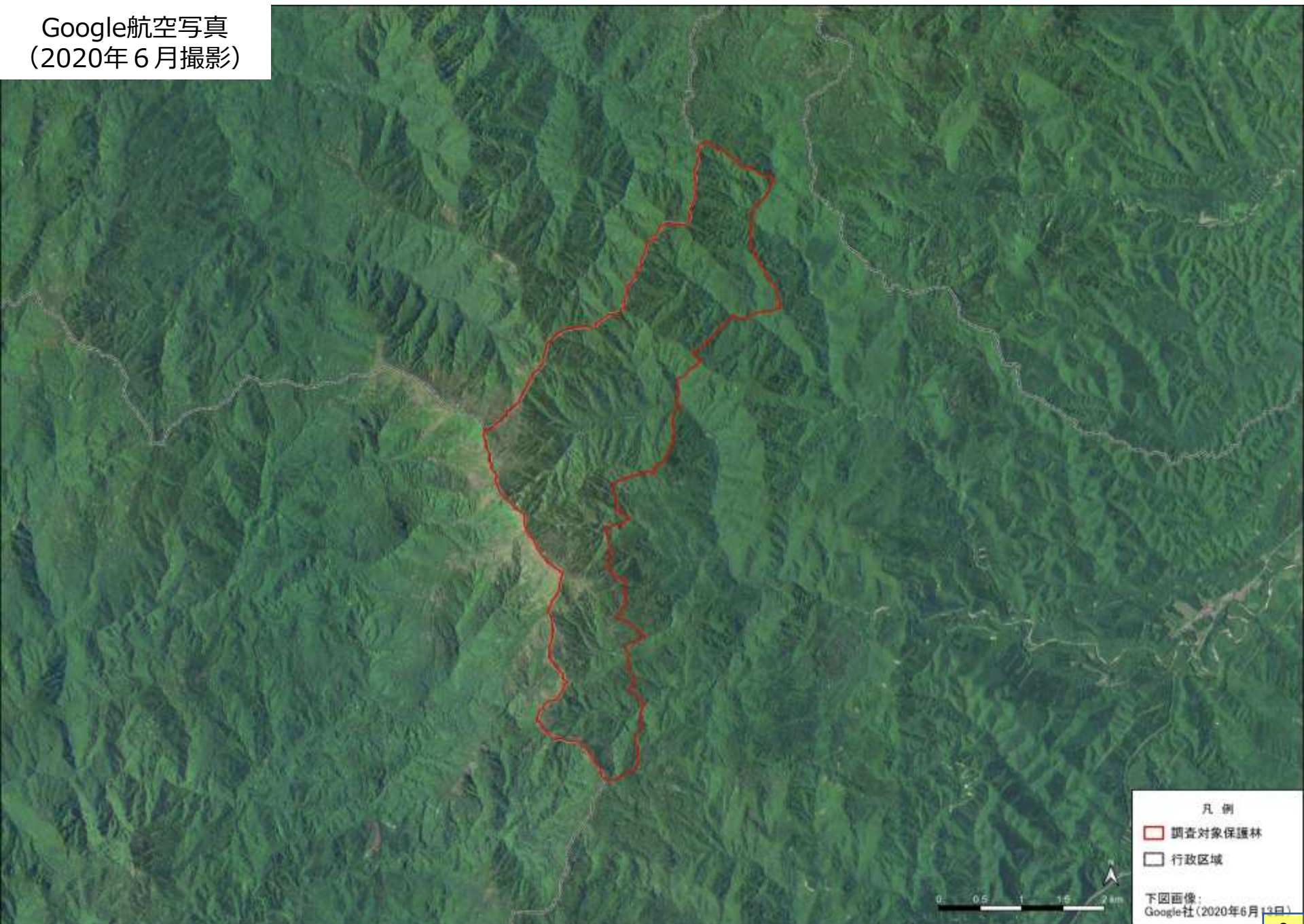
<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/kouen/hozen.html>



※国有林GIS,森林簿を基に作成



Google航空写真  
(2020年6月撮影)



凡例

- 調査対象保護林
- 行政区域

下図画像:  
Google社(2020年6月13日)





# 20016 千軒岳生物群集保護林 (958.05ha)

## 保護林設定 目的と経緯

- ・北海道最南端の高山帯である千軒岳に見られる地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、自然環境の維持、野生生物・遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展等に資することを目的とする。
- ・昭和12(1937)3月31日に「千軒岳植物群落保護林」に設定された。
- ・平成30(2018)年4月1日の保護林再編において、「生物群集保護林」として設定された。

## 保護対象と 生息・生育 区域

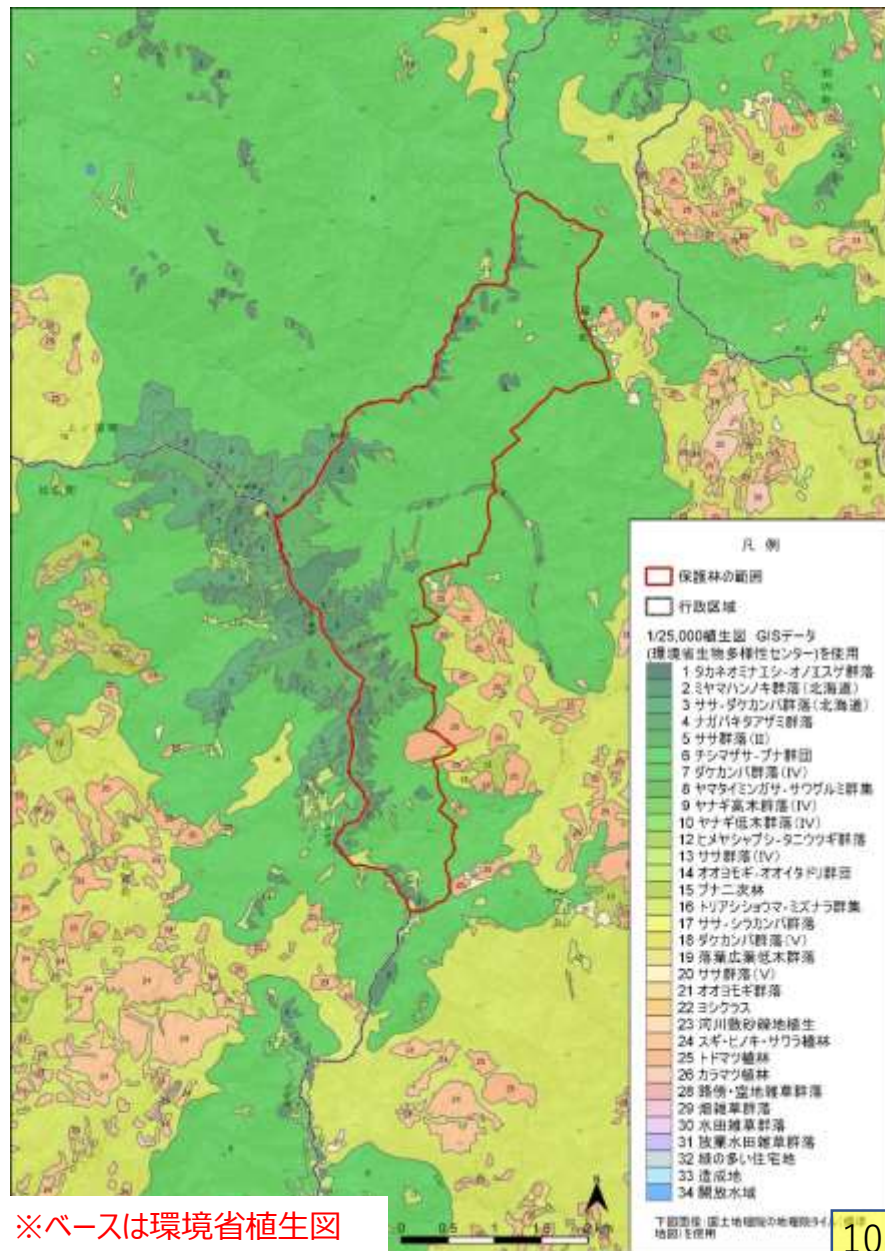
- ・千軒岳周辺地域の生物群集を有する森林。
- ・高山帯において、高山性植生と低山性植生が雪田に混生状態で見られる。

## 想定される 影響等

- ・保護林の北東～東～南東側は天然生林中心の国有林に隣接する。管理要領により保護林に外接する森林は原則として皆伐による施業は行わないこととされている。
- ・西側は大千軒岳自然環境保全地域(北海道、昭和51(1976)年5月21日指定、平成16(2004)年3月12日(拡張))に隣接する。
- ・保護林は周囲を国有林の天然生林及び道自然環境保全地域に囲まれているので、急激な環境の変化は想定されないものとする。

## 地帯区分 (案)

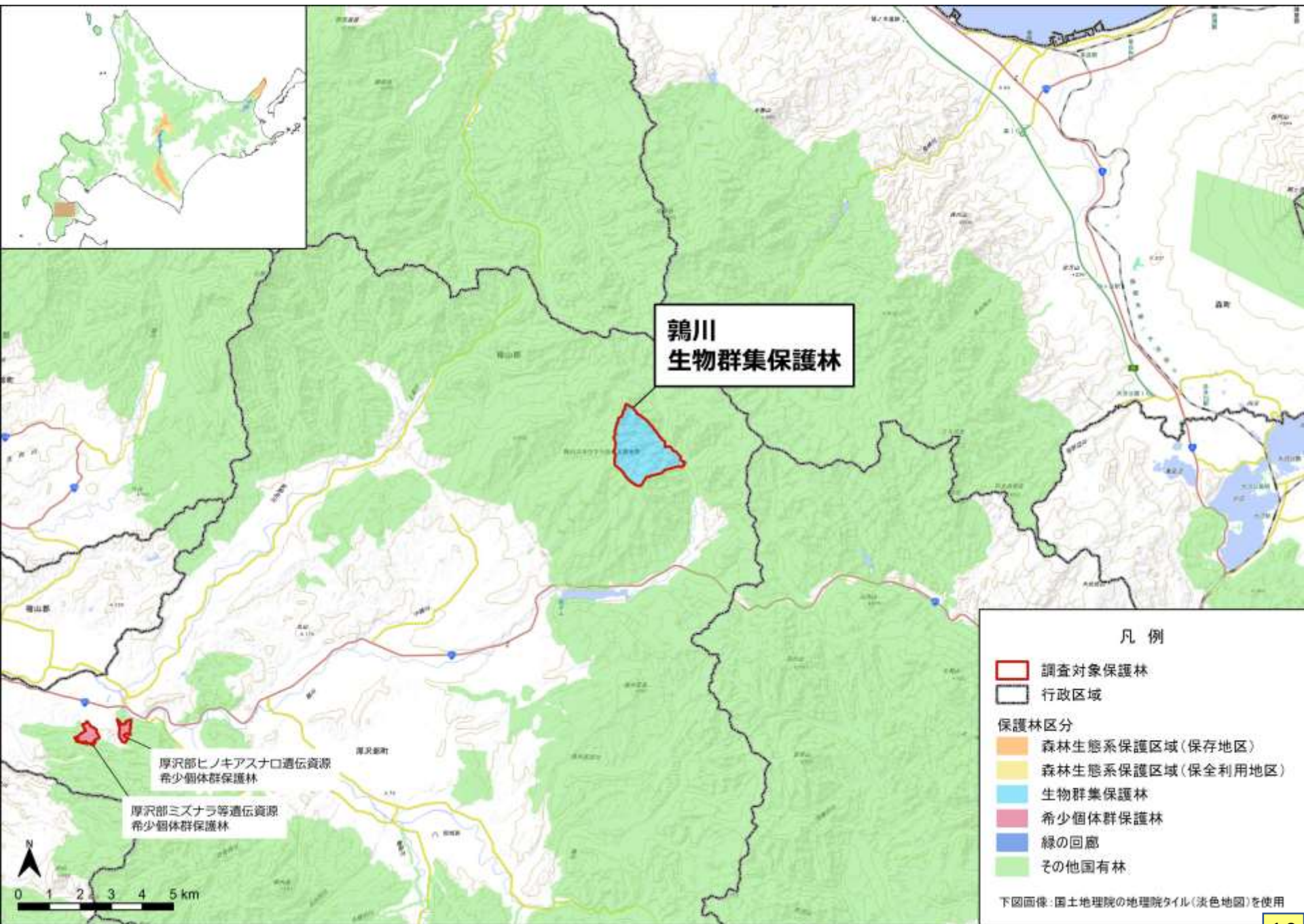
**全域、保存地区とする。**



※ベースは環境省植生図



# 20017 鶉川生物群集保護林



鶏川  
生物群集保護林

凡例

- 調査対象保護林
- 行政区域
- 保護林区分
- 森林生態系保護区域(保存地区)
- 森林生態系保護区域(保全利用地区)
- 生物群集保護林
- 希少個体群保護林
- 緑の回廊
- その他国有林

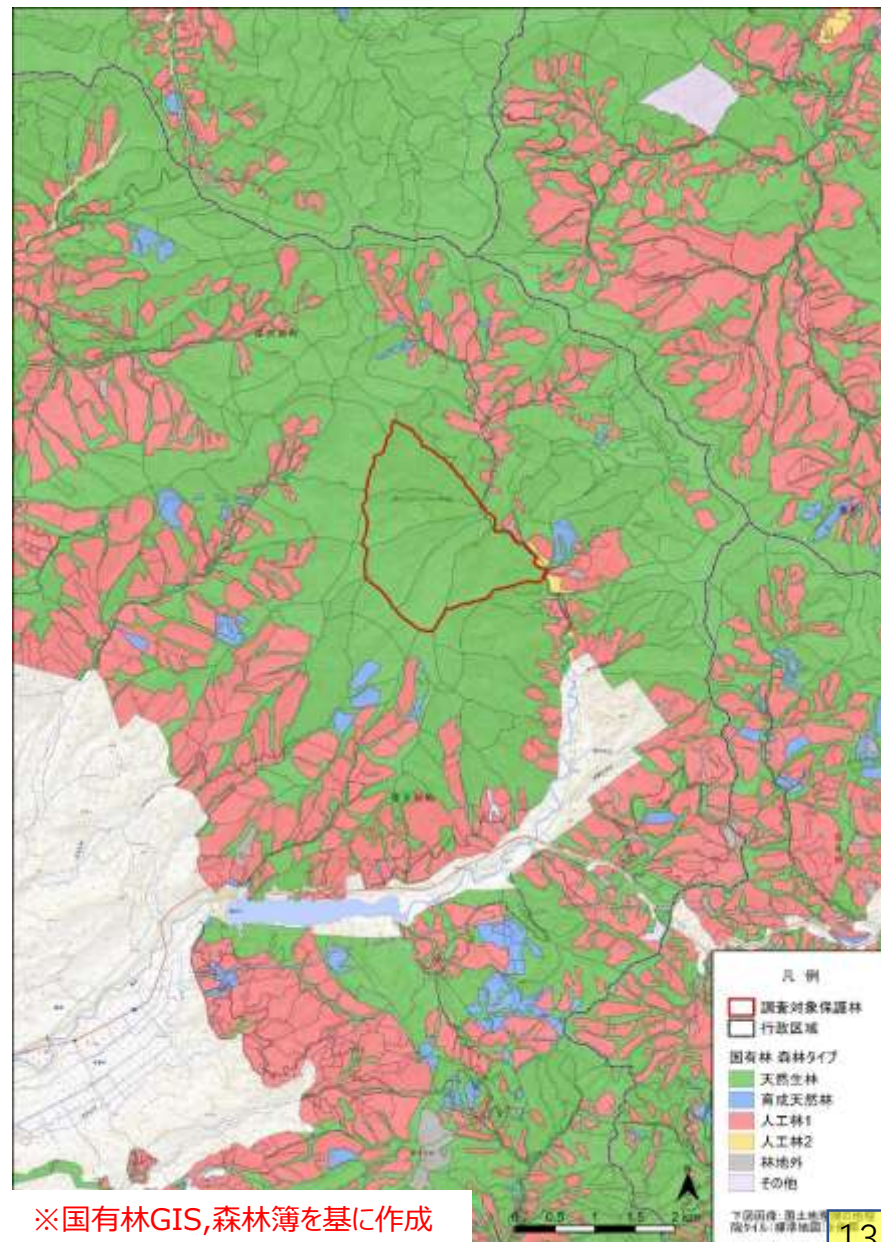
厚沢部ヒノキアスナロ遺伝資源  
希少個体群保護林

厚沢部ミズナラ等遺伝資源  
希少個体群保護林

下図画像：国土地理院の地理院タイル(淡色地図)を使用

# 20017 鶉川生物群集保護林 (321.27ha)

<p>保護林設定 目的と経緯</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キタゴヨウの日本海側自生地北限の鶉川地域において、キタゴヨウが生育する地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、自然環境の維持、野生生物・遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展等に資することを目的とする。</li> <li>・昭和63(1988)年に「鶉川植物群落保護林」として設定された。</li> <li>・平成30(2018)年4月1日の保護林再編の中で、「生物群集保護林」として設定された。</li> <li>・昭和3(1928)年2月7日に「鶉川ゴヨウマツ自生北限地帯」として国の天然記念物に指定された。</li> </ul>
<p>保護対象と 生息・生育 区域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶉川地域の生物群集を有する森林。</li> </ul>
<p>想定される 影響等</p>	<p style="text-align: center;">次ページ以降参照</p>
<p>地帯区分 (案)</p>	<p style="text-align: center;">章の最後に提案</p>



※国有林GIS,森林簿を基に作成



# 植生図 & 調査プロット位置図



※環境省植生図(1/5万)を基に作成





## 保護林の外観

2021年8月19日 管理局撮影



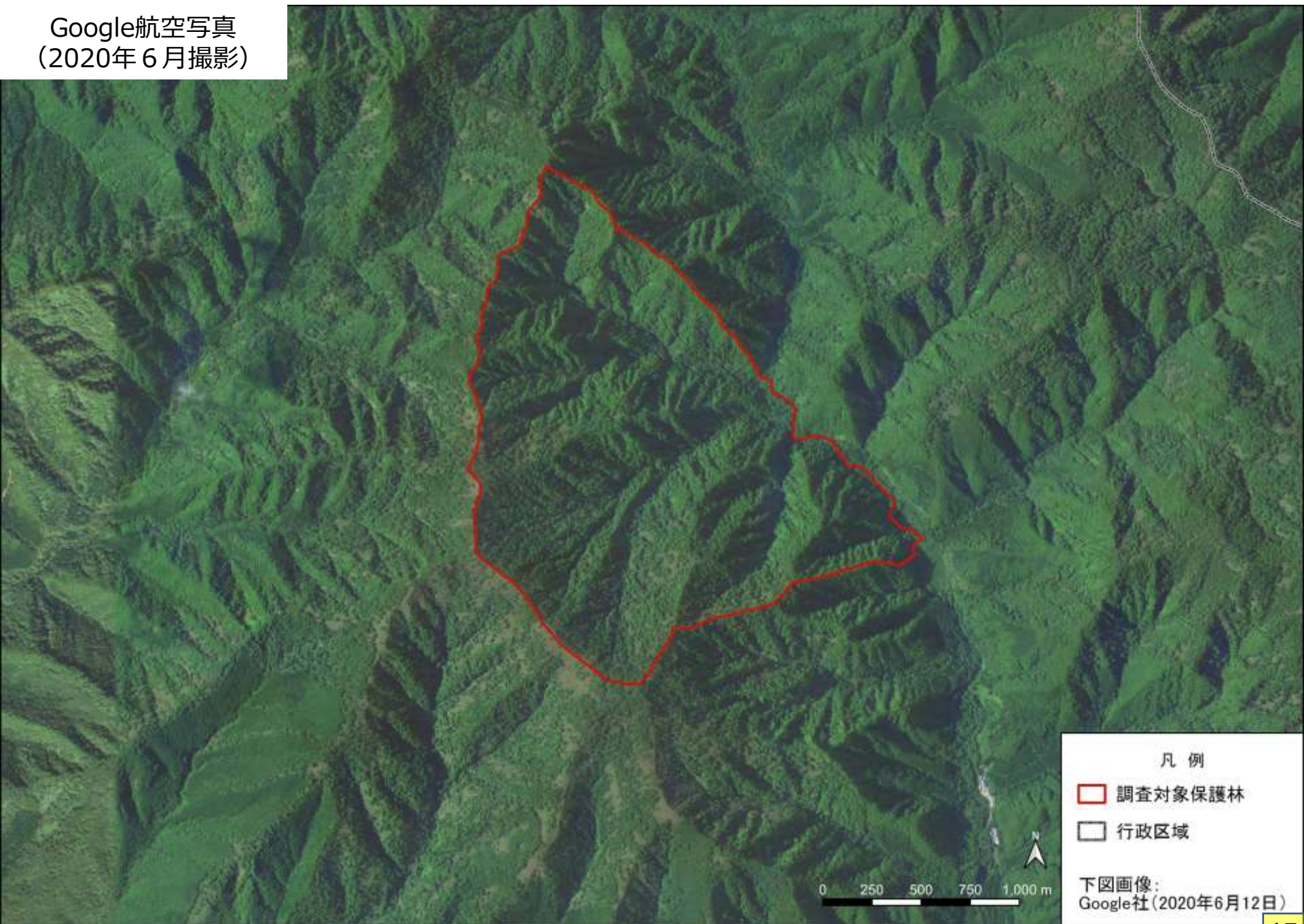
## 保護林の内観



Plot	調査地の状況																					
Plot1 (No.233-1)		<p>植生区分:冷温帯 落葉広葉樹林            植生ランク:植生自然度 9            地形:山腹平衡斜面(傾斜 45° )</p> <table border="1" data-bbox="1049 251 1624 629"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>生育種</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>キタゴヨウ、ブナ</td> <td>15～25</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>ブナ、コシアブラ</td> <td>10～16</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>オオカメノキ、ブナ、ホツツジ</td> <td>4～6</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>チシマザサ、オオバクロモジ、ツルアジサイ、ツルシキミ、ナツハゼ etc.</td> <td>0.1～1.0</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	層	生育種	高さ (m)	植被 (%)	高木	キタゴヨウ、ブナ	15～25	50	亜高	ブナ、コシアブラ	10～16	70	低木	オオカメノキ、ブナ、ホツツジ	4～6	10	草本	チシマザサ、オオバクロモジ、ツルアジサイ、ツルシキミ、ナツハゼ etc.	0.1～1.0	40
層	生育種	高さ (m)	植被 (%)																			
高木	キタゴヨウ、ブナ	15～25	50																			
亜高	ブナ、コシアブラ	10～16	70																			
低木	オオカメノキ、ブナ、ホツツジ	4～6	10																			
草本	チシマザサ、オオバクロモジ、ツルアジサイ、ツルシキミ、ナツハゼ etc.	0.1～1.0	40																			
Plot2 (No.233-2)		<p>植生区分:冷温帯 落葉広葉樹林            植生ランク:植生自然度 9            地形:やせ尾根(傾斜 15° )</p> <table border="1" data-bbox="1049 876 1624 1179"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>生育種</th> <th>高さ (m)</th> <th>植被 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>キタゴヨウ、ブナ</td> <td>15～21</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>ブナ、アオダモ</td> <td>5～12</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>キタゴヨウ、アカミノイヌツゲ</td> <td>2～5</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>チシマザサ、ホツツジ etc.</td> <td>0.1～1.0</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>	層	生育種	高さ (m)	植被 (%)	高木	キタゴヨウ、ブナ	15～21	70	亜高	ブナ、アオダモ	5～12	50	低木	キタゴヨウ、アカミノイヌツゲ	2～5	40	草本	チシマザサ、ホツツジ etc.	0.1～1.0	60
層	生育種	高さ (m)	植被 (%)																			
高木	キタゴヨウ、ブナ	15～21	70																			
亜高	ブナ、アオダモ	5～12	50																			
低木	キタゴヨウ、アカミノイヌツゲ	2～5	40																			
草本	チシマザサ、ホツツジ etc.	0.1～1.0	60																			



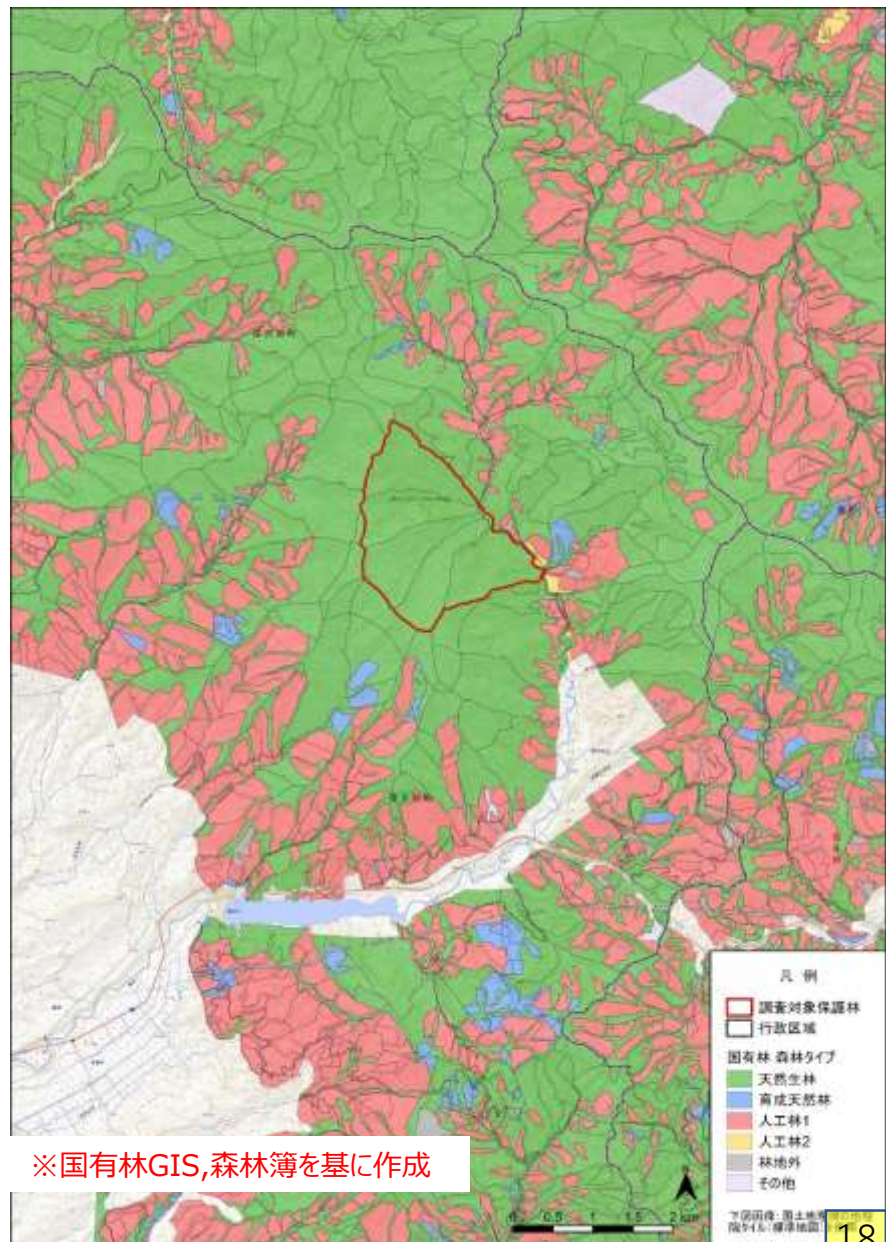
Google航空写真  
(2020年6月撮影)





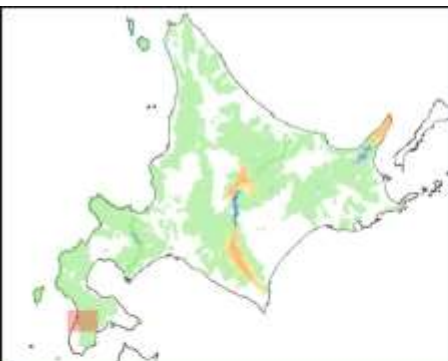
# 20017 鶉川生物群集保護林 (321.27ha)

<p>保護林設定 目的と経緯</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キタゴヨウの日本海側自生地北限の鶉川地域において、キタゴヨウが生育する地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、自然環境の維持、野生生物・遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展等に資することを目的とする。</li> <li>・昭和63(1988)年に「鶉川植物群落保護林」として設定された。</li> <li>・平成30(2018)年4月1日の保護林再編の中で、「生物群集保護林」として設定された。</li> <li>・昭和3(1928)年2月7日に「鶉川ゴヨウマツ自生北限地帯」として国の天然記念物に指定された。</li> </ul>
<p>保護対象と 生息・生育 区域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶉川地域の生物群集を有する森林。</li> </ul>
<p>想定される 影響等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護林の外周はほぼすべて天然生林および育成天然林に囲まれている。管理要領により保護林に外接する森林は原則として皆伐による施業は行わないこととされているため、保護林区域への環境の急激な変化は想定されないものとする。</li> </ul>
<p>地帯区分 (案)</p>	<p><b>全域、保存地区とする。</b></p>





# 20018 榎川生物群集保護林





# 20018 椴川生物群集保護林 (498.60ha)

## 保護林設定 目的と経緯

- ・ヒノキアスナロの自生地北限地帯、アオトドマツの自生地南限地帯の椴川地域において、両樹種が混交する地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、自然環境の維持、野生生物・遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展等に資することを目的とする。
- ・昭和63(1988)年11月5日に、「椴川植物群落保護林」に設定された。
- ・平成30(2018)年4月1日の保護林再編の中で、「生物群集保護林」として設定された。
- 大正11(1922)年10月12日に「ヒノキアスナロおよびアオトドマツ自生地」として国の天然記念物に指定された。

## 保護対象と 生息・生育 区域

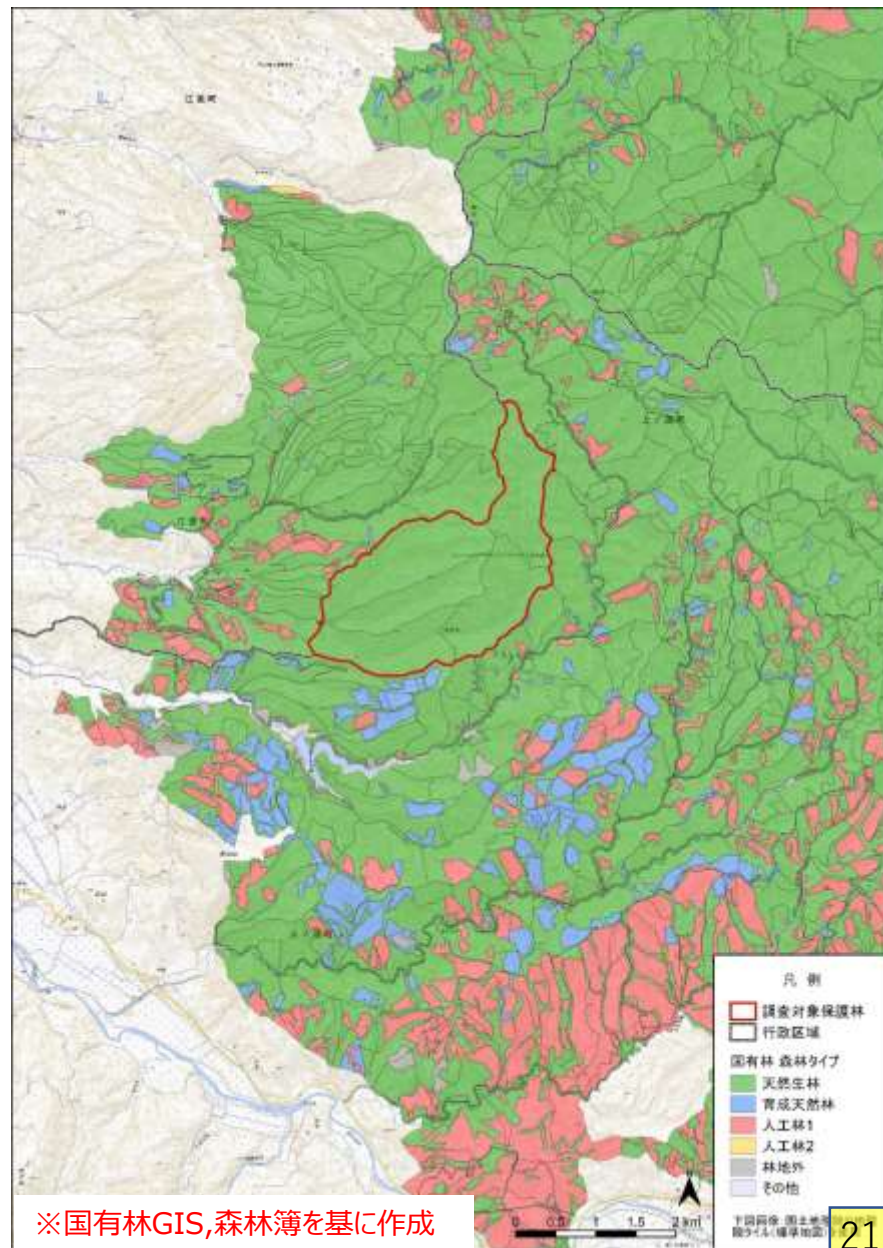
- ・椴川流域の生物群集を有する森林。

## 想定される 影響等

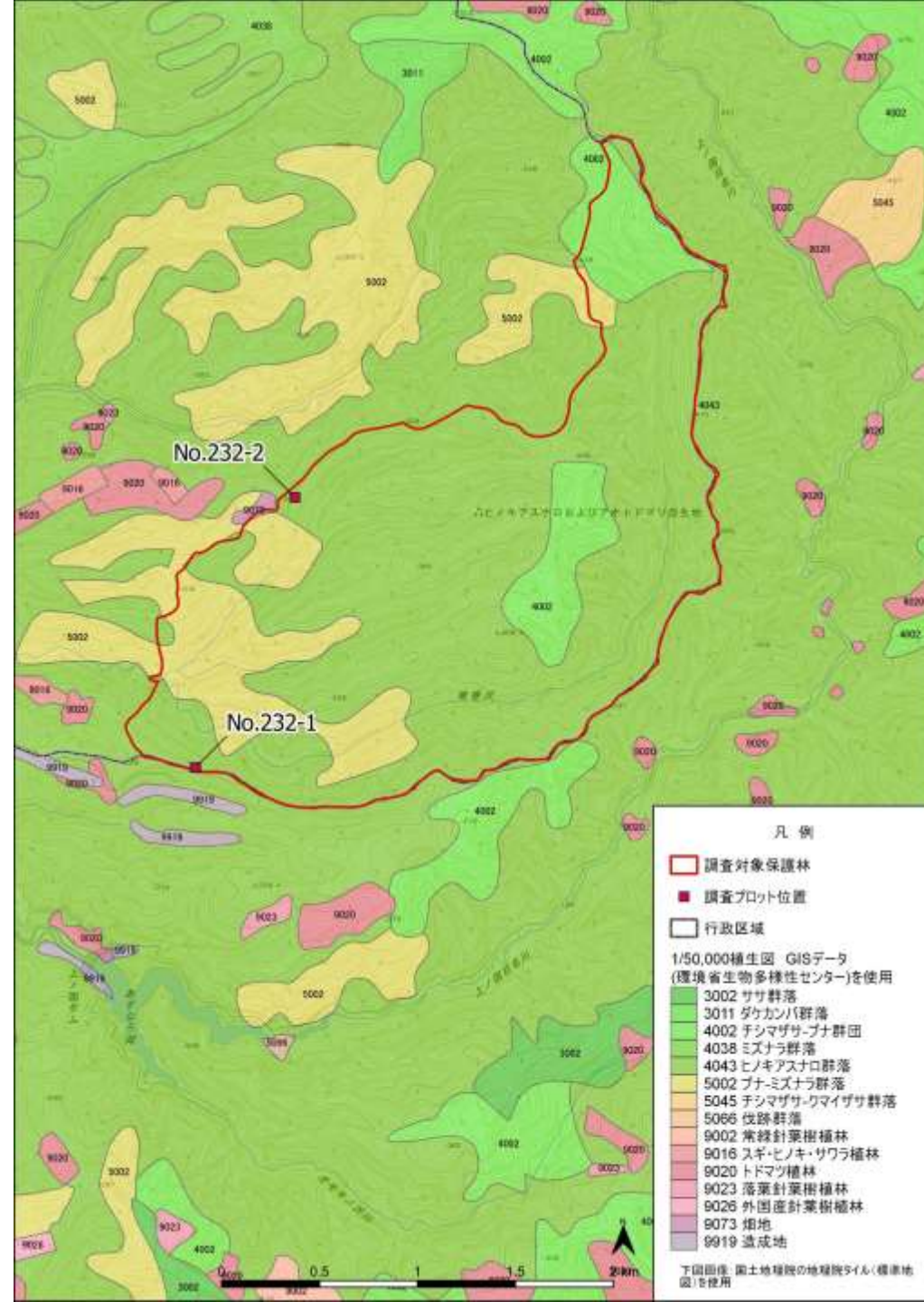
次ページ以降参照

## 地帯区分 (案)

章の最後に提案



# 植生図 & 調査プロット位置図



※環境省植生図(1/5万)を基に作成







## 保護林の内観

2021年8月18日 管理局撮影

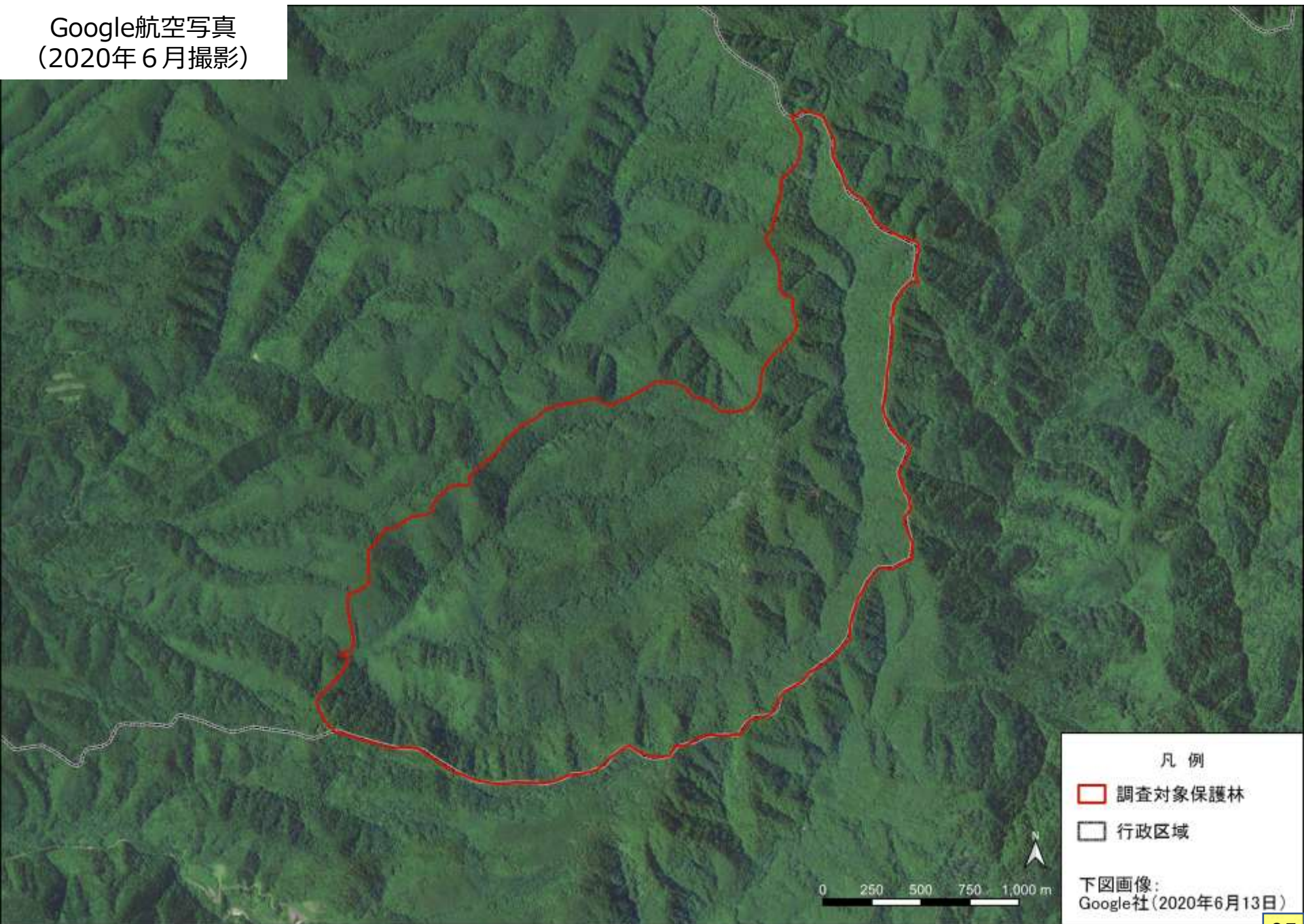


## 到達経路の状況

Plot	調査地の状況																					
Plot1 (No.232-1)		植生区分: 冷温帯針葉樹林 植生ランク: 植生自然度 9 地形: 山腹平衡斜面(傾斜 36° ) <table border="1" data-bbox="1045 269 1611 612"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>生育種</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>ヒノキアスナロ</td> <td>15~30</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>ヒノキアスナロ</td> <td>8~10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>ツルシキミ、ミゾシダ、ヤマイヌワラビ、ツルアジサイ、オオバクロモジ etc.</td> <td>0.1~0.5</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	層	生育種	高さ(m)	植被(%)	高木	ヒノキアスナロ	15~30	80	亜高	ヒノキアスナロ	8~10	10	低木	—	—	—	草本	ツルシキミ、ミゾシダ、ヤマイヌワラビ、ツルアジサイ、オオバクロモジ etc.	0.1~0.5	50
層	生育種	高さ(m)	植被(%)																			
高木	ヒノキアスナロ	15~30	80																			
亜高	ヒノキアスナロ	8~10	10																			
低木	—	—	—																			
草本	ツルシキミ、ミゾシダ、ヤマイヌワラビ、ツルアジサイ、オオバクロモジ etc.	0.1~0.5	50																			
Plot2 (No.232-2)		植生区分: 冷温帯針葉樹林) 植生ランク: 植生自然度 9 地形: 山腹平衡斜面(傾斜 32° ) <table border="1" data-bbox="1045 885 1611 1228"> <thead> <tr> <th>層</th> <th>生育種</th> <th>高さ(m)</th> <th>植被(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高木</td> <td>ヒノキアスナロ</td> <td>14~30</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>亜高</td> <td>ヒノキアスナロ</td> <td>5~12</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>低木</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>草本</td> <td>イワガラミ、アオダモ、ミゾシダ、ミヤマスマレ、キッコウハグマ、ツルシキミ etc.</td> <td>0.1~1.2</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1035 1272 1406 1296">備考: 過密により枯死がみられる。</p>	層	生育種	高さ(m)	植被(%)	高木	ヒノキアスナロ	14~30	80	亜高	ヒノキアスナロ	5~12	20	低木	—	—	—	草本	イワガラミ、アオダモ、ミゾシダ、ミヤマスマレ、キッコウハグマ、ツルシキミ etc.	0.1~1.2	50
層	生育種	高さ(m)	植被(%)																			
高木	ヒノキアスナロ	14~30	80																			
亜高	ヒノキアスナロ	5~12	20																			
低木	—	—	—																			
草本	イワガラミ、アオダモ、ミゾシダ、ミヤマスマレ、キッコウハグマ、ツルシキミ etc.	0.1~1.2	50																			



Google航空写真  
(2020年6月撮影)



凡例  
■ 調査対象保護林  
□ 行政区域

下図画像:  
Google社(2020年6月13日)



# 20018 椴川生物群集保護林 (498.60ha)

## 保護林設定 目的と経緯

- ・ヒノキアスナロの自生地北限地帯、アオトドマツの自生地南限地帯の椴川地域において、両樹種が混交する地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、自然環境の維持、野生生物・遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展等に資することを目的とする。
- ・昭和63(1988)年11月5日に、「椴川植物群落保護林」に設定された。
- ・平成30(2018)年4月1日の保護林再編の中で、「生物群集保護林」として設定された。
- 大正11(1922)年10月12日に「ヒノキアスナロおよびアオトドマツ自生地」として国の天然記念物に指定された。

## 保護対象と 生息・生育 区域

- ・椴川流域の生物群集を有する森林。

## 想定される 影響等

- ・保護林の外周はほぼすべて天然生林又は育成天然林に囲まれている。管理要領により保護林に外接する森林は原則として皆伐による施業は行わないこととされているため、保護林区域への環境の急激な変化は想定されないものとする。

## 地帯区分 (案)

**全域、保存地区とする。**

